

疲れて休んだものもいた。

運動量は適当に与えられたかどうかについての反省

1 疲労について

ア、疲れたという者が半数以上いたが次時に影響したとは思われなかった。(6校時は道徳) 胸や腕がだるいという者も15~16名いた。

イ、教室に入ってからあまりさわがず自分の座にぐったりとしている者が多かったのでかなり疲れたと思われた。

2 満足感

ア、持久走 いっしょうけんめい走ったし大たいの距離と時間のようすがわかったというものが大多数だった。

イ、とびこみ前転 じょうずにできたから、ほめられたからもっとやりたいと思う者、疲れたけれどももうすぐで練習したい者をふくめ、まだ練習したいと考える児童も多かった。

ウ、今の時間やったことは、充分か、という問いに対しては、自分ではよくやったと思う者が多かった。

3 学習内容

ア、学習のねらいは、毎時の体育と比べた場合一応良かったのではないかと**思われた。**

4 次時の学習

ア、特に目立った影響はみられなかった。

5 皮膚や顔色

ア、良い者多数 悪い者2名

6 呼吸や発汗

ア、汗をかいたという者21名

7 水の摂取

ア、21名(体育時終了後 6校時までにのんだ者)

教材の組合せも、扱いやすく、気温もちょうどよい好条件であり、日常の授業と特にかわったこともなく一応の指導ができたと思われるが、教材

についての知識や技能のないこと、指導の段階が児童の力に対し適切であったかどうか、指導方法の問題とか、一時間の授業をする上での問題だけでも山積している本時の指導であったように思われる。

観点別チェック式反省について、の反省

1から7までの内容でよいのかどうかという疑問をもちながら一応それにしたがって記録をしているが、これに個人で検討を加えたり考えたりしていくことがなかなかできない現状である、これによって運動量という面から自分の授業をみていこうとする材料として活用できることはよいが(教材や時期の問題もからむので)項目のとり方には、専門的な研究が必要ではないかと思われる。

どの項目についても測定ではないからはっきりしたものが見つみにくい難点があるように思われるので、記入していて気づいた主なものを出示してみる。

1 疲労

○基準になるものがないし、むずかしい生理学上の測定方法はとれない。

○日常のようすとくらべるとしても何をみて比較すればよいかはっきりできず単にようすをみるだけになってしまった。したがってABCの段階で記入することがむずかしい。

○児童にきいたのでは、肉体的な疲れか、気持ちの上で疲れているのか、本当に疲れているのかいないのか、あまりはっきりしない。

○気象条件、その日の体調によっても変化があるだろうし、どの程度疲れさせ、またはつかれさせないようにすればよいかも、なかなかみつけ出しにくい。

○個人差のあるものを基準がなく人数でみるところが、無理と思われる。

○そこで記入の方法として、児童からのうたえと、質問に対する答、本当のことをいう